

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人 隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
所在地	大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	平成 24年 8月 10日	評価結果市町村受理日	平成 24年 9月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801633&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801633&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 8月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出の機会を増やし、閉じこもらないように、社会との関係が切れないうに支援している。集団での外出が苦手な方でも個別外出をし、外出先も本人や家族などに本人の行きたい場所や好きな場所を聞き取りし、外出するようにしている。  
 ・起床時間(起きたい時間に起きる)や入浴時間(夜の入浴)なども個々のご希望に応じ対応している。  
 ・ボランティアなどに協力を求め、いろいろなレクリエーションや外出支援を手伝ってもらっている。ホームに来られる人が増えるということは、馴染みの関係が増えるということで定期継続してもらえるようにしてもらっている。  
 ・自施設だけでなく、他施設の見学を積極的に行い、良い点を見習い、取り入れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長居公園の向かい側に立てられたホームで、リビングの窓一面からは、緑いっぱい景色を眺めることができ、四季折々の自然を感じることができます。「利用者・家族・地域・職員・法人の笑顔」を理念に掲げ、職員は理念を理解し、利用者の笑顔を中心とした支援を実践しています。個別外出に積極的に取り組み、利用者はもちろん家族にも喜んでもらっています。地域との交流も活発で、「長居公園のゆめさん」と認知度も上がり、地域に浸透してきました。散歩支援を始めとする多くのボランティアの協力が利用者の暮らしに変化と潤いを与えています。働きやすい職場環境作りや外部研修の参加、他施設見学にも積極的に取り組み、利用者本位のサービスへの士気の高さに繋がっています。今後は、さらなる進化が期待できるグループホームです。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげています</p>	<p>理念として、利用者・家族・地域・職員・法人の5つの笑顔を実現することを掲げています。地域密着型サービスとして、地域との交流を積極的に図り、地域の憩いの場となるよう連携を行っています。</p> <p>ホーム独自の方針も事業計画時に作成し、また毎月フロアごとに法人理念を基にフロア目標を掲げ、実践しています。</p>	<p>法人の基本理念である「ご利用者の笑顔、ご家族の笑顔、地域社会の笑顔、職員の笑顔、法人の笑顔」の『5つの笑顔』を職員は共有して実践しています。</p> <p>利用者と家族の心が満たされるサービスを目指し、「笑顔と元気な挨拶で明るい施設作り」「自立支援」「利用者様・家族様・地域の信頼を得る」の運営方針を掲げています。また、毎月フロアごとに目標を掲げ、実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流しています	<p>日常的に散歩や買物等に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしています。また、町会に参加し、回覧板のネットワークに加入し、回覧板で得たイベント情報でイベント(ふれあい喫茶、夏まつりなど)に積極的に参加しています。</p> <p>地域の中学生の職業体験やボランティアの受入を行っています。ホームでも作業所などの地域施設より訪問喫茶などをしてもらっており、地域の集会所で開催されるふれあい喫茶や鷹合虹の会にも積極的に参加しています。また、施設イベント開催時には、近くの飲食店などに開催の主旨などを説明し了解を得た上で、ポスターの掲示などの協力いただいています。</p>	<p>地域との交流には積極的に取り組み、「長居公園のゆめさん」と認知度もあがり、地域に浸透してきました。回覧板で得たイベント情報で、ふれあい喫茶や夏祭りに参加しています。ふれあい喫茶では、管理者もボランティア活動をしています。地域の高齢者の集まり「虹の会」には毎月参加して、地域の方たちとの交流があります。中学生の職業体験や実習生の受け入れ、外国からの研修生受け入れ等、世代間交流、国際交流にも取り組みを続けています。障がい者作業所からの訪問喫茶、散歩支援を始めとする多くのボランティアの協力は、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力となっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げています認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしています</p>	<p>職員が認知症キャラバンメイトとして地域住民に認知症について正しく理解して頂けるよう活動してるばかりでなく、職員も地域の方と共に認知症サポーター養成講座を受け、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を地域の方と一緒に考える時間を共有し、日頃業務などで得た知識や経験を伝えています。</p> <p>民生委員など地域住民対象の見学会や介護予防の講習会の開催は具体的に実行はできていませんが、グループホーム入居につながらない相談であっても、介護保険サービスについての説明や「東住吉区グループホーム・小規模多機能連絡会」で得た情報等、情報提供に努めています。</p> <p>また、ボランティアへのオリエンテーション時必ず、活動に関する留意事項だけでなく、認知症等、理解いただけるような情報提供を行っています。活動中も認知症について理解を深めていただけるよう、面談するなど工夫しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています	前回の運営推進会議にて検討した議題についての経過報告を実施し、施設からのイベントの案内や講習会についての情報発信を実施しています。また、施設での事故報告なども伝え、対策についても相談しています。また会議での意見をフロア職員に周知徹底しています。	運営推進会議の要綱に基づいて会議を開催しています。利用者家族代表、町会長、地域包括支援センター職員が毎回参加し、行事報告、利用者に関する活動、研修報告等について伝えています。年度初めには事業計画書を配布し、内容説明を行い、理解を得ています。参加者からは、地域に関する情報の提供や、助言を得ています。備品の定期的な点検の必要性や、空調の温度設定についての提案を受けて、改善した例があります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には区包括支援センター職員に参加して頂いています。あんしんサポート職員の訪問もあり情報を提供し、協力や連携できるよう努めています。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得て、運営状況を理解してもらっています。管理者が役員として出席している、介護保険関係者連絡会には、区の担当職員の出席もあり、情報の交換と連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っています。	身体拘束に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。高齢者虐待についての外部研修にも積極的に参加し、伝達研修を行います。他県で高齢者虐待が報道された際には、ミーティングで虐待防止についての再認識を行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています	虐待防止に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援しています	外部研修で成年後見人等の制度について研修し、個々の必要性を関係者と話し合い、成年後見人制度などを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています	契約前にしっかりと施設見学をしていただき、その際に法人の理念や施設の方針をしっかりと説明してから、時間をかけて対応しています。入居後1ヶ月程度で面会にこられた際に相談する機会を設定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています</p>	<p>第三者評価の結果を施設内に掲示し、意見をだしていただけるよう環境づくりをしています。運営推進会議ではスタッフを除いた時間をとり、話し合いをしていただいています。今年度より家族様との茶話会を行い、家族間の交流や意見などを聞く機会などを設けた。ご家族様のクレームに対しては、施設スタッフ全体で対応し予防策を講じています。</p>	<p>運営推進会議では、家族代表に参加を得ており、意見を聞く機会を設けています。また家族と職員の茶話会を4ヵ月に1回行い、利用者や家族から、意見や要望を聞くことができます。家族に届ける広報紙も、より紙面を充実させることができるように、広報研修に参加して、活かしています。職員は日頃から利用者や家族との会話を大切に、気軽に声かけを行っています。家族から洗濯した衣類が収縮した事について要望があり、職員で検討し、改善した例があります。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させています</p>	<p>フロア会議、勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしています。また個別にスタッフに対して、6ヶ月ごとに面談を業務中に行い、現在の仕事状況等についての確認を行なっています。日頃から8Sシートも活用し職員一人ひとりの「気付き」を発言できる機会を設け随時スタッフとコミュニケーションをとるようにしています。</p>	<p>毎月のフロア会議で意見を出し合っています。8S(整理・整頓・清潔・清掃・安全・節約・躰・しぐさ)提案シートで、職員は気づいたことの改善案を随時提出し、意見を表出しやすくなっています。意見が運営に反映されることは、職員の励みにもなっています。法人内の交換研修、グループホーム連絡会の交換研修、外部研修等、研修への参加の機会は大変多くあり、管理者の働きやすい職場環境への配慮も合わせて、職員の士気を高めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています</p>	<p>各職員が向上心を持つことができる職場環境を整えるため、行事等の希望があれば、スタッフの人員を多く確保するなど柔軟に対応しています。事前に次月の行事の予定があれば、それに対応した勤務を作成しています。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています</p>	<p>外部の研修にも積極的に参加できるように、外部研修のお知らせの掲示など、体制を整備し、施設内研修会についても月1回実施しています。研修報告書については、研修ファイルを設置し常時閲覧できるようにしています。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています</p>	<p>大阪市グループホームネットワークや大阪府認知症高齢者グループホーム協議会などに加入し、勉強会やネットワーク作りをしています。東住吉区内のグループホーム連絡会を発足し、活動を行っています。スタッフに対して東住吉区内などのグループホームの見学会を行ない、サービスの質の向上させていく取り組みをしています。管理者同士の定期会議も実施しています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていますこと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけています。その後、しっかりと時間をとりご利用者様の話を聞き、不安の解消やサービスへの要望だけでなく、今までの生活歴など出来るだけ詳しく聞取れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていますこと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています	相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけています。その後、しっかりと時間をとり、ご家族様の話を聞き、契約・金額面・医療面についての不安を解消していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としています支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています	グループホーム入居希望であるが、すぐに入居できない場合等については、デイサービスの利用やホームヘルパー等の利用についても説明を行なっています。なお緊急でお探しの場合は他施設の紹介もしています。サービスを初めて利用される場合は利用に関する手続きを説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています	協働の意識を持ち、ご利用様と日々を楽しみながら安心して生活していただけよう心がけています。掃除や洗濯などを一緒に行なうことで今までされてきた生活を大切に、また共通の目的を達成していけるよう共同で生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています	誕生日企画である個別外出では、しっかりとご家族様・ご本人様から情報収集を行い、過去の外出先等を加味した上で検討しています。面会にこられた際は、スタッフとご利用様、ご家族様で少しでも話す機会をとれるよう職員にも周知徹底しています。ご家族様にはたよりでの職員紹介や、2カ月ごとに居室担当スタッフからご利用様の近況報告の手紙をお送りするだけでなく、4カ月に一度「ご家族様と職員との交流会」を開催し、ご家族様に遠慮なくお話いただける環境を整えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	近隣で生活されていた場合は、普段の日常で経験されていた場所(喫茶店など)に外出するなど支援を行なっています。また、馴染みの知人・友人が来てもらえるよう家族にも話をしており、家族からの了承を得て、馴染みの知人と短時間の外出の機会も設け、グループホーム入居後も入居前の時間が途切れないよう努めています。	馴染みの友人・知人が訪問しています。馴染みの喫茶店に行き、そこでまた馴染みの人と出会うこともあります。最近、故郷の家族から手紙が届き、「兄貴の字や」と利用者が感激していました。職員は、馴染みの人や場との関係支援の大切さを学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています	利用者様同士の関係性については、常に意識してケアを行い、スタッフが関わることで良好な人間関係を保っていますよう努力しています。問題が発生した場合は臨機応変に座席の変更等を行ない対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています	現在、サービス終了したご利用者様とご家族様との継続的な関わりを持つという事例は発生していません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、本人本位に検討しています	日常生活の中で、ご利用者様の表情や言動等から思いや希望の把握を行うようにし、困難な場合もご家族様などに相談しながら外出やレクリエーションの参加等につなげていくようにしています。	職員は法人理念の中にある「利用者の笑顔」を中心に、5つの笑顔は広がっていくと受け止め、一人ひとりの思いや意向を大切に把握に努めています。困難な場合にも、家族と相談しながら日常生活の関わり方を工夫し、利用者の希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています	ご利用者様およびご家族様から積極的に情報収集を行なっています。毎年新しい情報を追加・更新を行なっています。ケース記録に保管し、随時確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めています	入居後1ヶ月間は重点的に観察、見守りを行い、現時点での状況をコミュニケーション、日常生活を通じて把握するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています	ご利用者様の意見については、普段の会話から汲み取り、ご家族様については面会時に話をしています。その結果を月1回のケア会議で検討し、ケアプランに反映させるようにしています。	入居初めての介護計画は、自宅へ訪問し、家族や利用者から意見、希望を聞き策定しています。1ヵ月後に2回目の介護計画を策定しています。基本的に6ヵ月毎に見直していますが必要に応じ期間内にも見直す場合があります。月1回のケア会議で利用者一人ひとりについて支援経過を基に検討し、介護計画に反映しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています	日々の様子を詳しく記入し、ケース記録として誰でも閲覧することができるようにしっかりと記録しています。記録を元にケアプランの変更を行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況の変化により随時協力医療機関以外にも受診を行なっています。家族様不在時などについては、スタッフによる受診付き添いも行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えています地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています	地域ボランティアの方の協力を得ながら、外出やレクリエーション(歌や昔の遊び)、アニマルセラピー、子供達とのふれあい等楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています	事業所の嘱託医による訪問診療を行っています。嘱託医以外の受診についても、ご利用者様の必要に応じて、ご家族様と連絡を行ない、通院介助を行っています。複数の医療機関を受診できるような環境づくりをしています。	入居前からかかりつけの医療機関への受診は、利用者の希望があれば可能です。ホームの嘱託医による月2回の診療、他に眼科が月1回、歯科は週1回の診療があります。24時間体制医療支援をとり、夜間の緊急時の対応体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています</p>	<p>協力医療機関のクリニックによる定期健康診断および排泄のコントロールについても適時連絡、指示を仰いでいます。また、週1回の訪問をしてもらい、日常の健康管理をしてもらっています。また、併設されていますデイサービスの看護師にも随時状況の確認・対応をしてもらっています。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っています</p>	<p>入院された場合は、ご家族様と一緒に診療の方針等について説明を受けるようにしています。また定期的に病室を訪れ、看護師、ご家族様と情報の交換を行い、早期退院に向けた環境整備を行うよう努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、原則として特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明しています。重度のご利用者様については、随時他の施設への移動などを家族と検討して対応しています。当ホームの浴室状況や食事内容に関してできること、出来ないこと(機械浴がない。)を家族様に伝え、基本的に要介護4になると特養への入所申込を勧めています。ホームとしては次の場所が決まるまでは、ホーム内でできることを伝え、対応することにしていきます。</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居契約時に家族に示し説明しています。原則として、要介護度4になると特養への入所を勧めることとしています。重度になっても次の施設が決まるまでは、ホームで支援します。食事が摂れにくくなり入院した利用者、何とか帰ってきて欲しいとの思いで、職員が病院へ食事介助に出向き支援した事例があります。</p>	<p>今後は、日常生活動作の重度化だけでなく、多様なニーズの利用者への対応のために、さらなる充実した体制作りやレベルアップが期待されます。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています</p>	<p>職員研修などで定期的に緊急時、事故発生についての対応のロールプレイングを実施しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いています	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回定期的に実施しています。夜間の出火についての想定での避難訓練も実施しています。非常用食品や水の備蓄もしています。地域の協力を得られるよう近隣の方と日頃より挨拶など行い関係作りに努めています。	災害時に利用者の安全を守るための、災害対応マニュアルを策定しています。避難訓練は夜間想定も含め、年2回行われています。消火器の設置場所が床面で解りにくいことから、壁面上部に消火器のイラストを張り、目につきやすい工夫がされています。地震対応について、地震発生後建物の破損や亀裂について確認し、避難するようにしています。非常食やその他必要な備品を備蓄しています。	建物は耐震構造になっていますが、地震発生時の対応マニュアル作成や訓練を実施し、今後、利用者のより安心・安全な生活の支援に繋がることが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています	法人の理念にあるようにご利用者様の笑顔を大切に言葉かけを行っています。また入職時に「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、お一人おひとりの人格を尊重したプライバシー等損ねない言葉かけや対応の徹底に努めています。記録等については、スタッフルームにて管理しており、日中は常時施錠することで対応しています。	職員は、「ゆめしぐさ」というタイトルのマニュアルを共有し、利用者を思いやるところが伴った接遇を心掛けています。利用者が安心して居心地良く過ごしてもらうために、利用者のペースを大切に、丁寧なサービスを提供しています。個人情報保護に関しても、入職時に誓約書をとっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけています	ゆっくりと時間をかけてご利用者様とコミュニケーションをとり、ご利用者様が落ち着くことができる環境になるように支援しています。失語症など気持ちの表現が難しいご利用者様に対しても、認知症という疾患と、その方の個性や今までの生活歴等を考慮し、言葉だけでなく表情やしぐさなどから、できるだけ本心に近いお気持ちがくめるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています	基本プログラムは整えていますが、ご利用者様の起床時の状況に合わせてプログラムを変更しています。外出の頻度についてもできるだけご利用者様の希望に添えるように実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています	特にご利用者様からの指定の美容室がない場合は訪問理美容にて対応しています。内容(カットやパーマなど)については本人に確認しながら行っています。お出かけの際には、時々口紅を塗ったり、着て行く洋服を選んでいただくなど、選ぶ喜びも含めた「心のおめかし」を楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています	現在、ご利用者様の状況に合わせて出来る部分を一緒にして頂く様になっています。後片付けについては、洗った食器を拭いて、食器棚にいただいています。炊事場の掃除もやっています。各ユニット月に1回、料膳ゆめとして調理師、管理栄養士による季節に応じた料理を提供してもらってご家族様にも一緒に召し上がっていただくなど大変好評です。	昼食のご飯・汁物はホームで作り、副菜はクックチルを使って作っています。夕食は各フロアで隔日毎に作ります。利用者と一緒におやつ作りも楽しんでいます。調理師と管理栄養士による「料膳ゆめ」は、利用者の楽しみになっており、家族と一緒に食べてもらう機会も作りました。季節感を楽しめるようメニューにも工夫を凝らし、7月は流しそうめんやフルーツで夏を満喫してもらいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています	食事量および水分量を記録に残し、職員間で把握しています。献立など定期的に同法人の管理栄養士に確認を依頼し、意見を聞いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています	毎食後の口腔ケアの実施、夜間は義歯の方には消毒などの援助をご利用者様ごとに行っています。また、週1回歯科医・歯科衛生士による口腔内の確認や口腔ケア指導を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っています	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援しています。また個々の状態に合わせて紙パンツやパット類を検討しています。	トイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表に一人ひとりの状況を記録し、個別の排泄リズムを把握しています。オムツ使用で退院した利用者が、トイレ誘導を丁寧にする事で、排泄の自立に繋がった事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のプログラムや散歩レクリエーションを通して身体を動かしていただける機会を多く設定しています。食事面でもヨーグルトなどの提供を行い、便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしています	ご利用者様と相談した上で入浴日の設定を行なっています。その際、時間帯については当日ご利用者様の状況をみながら声かけを行ない入浴していただいています。	現在、夜間入浴の希望者があり実施しています。週3回の入浴が基本ですが、希望があれば毎日の入浴が可能です。入浴を好まない利用者には、時間を変え、何度か声かけをしたり、工夫をしながら、利用者の気持ちに添った対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています	入眠時間については、ご利用者様のリズムで入眠していただいています。テレビを見る方はリビングでゆっくりと見られています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用しています薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています	処方箋を各ケース記録に綴るなどスタッフがいつでも閲覧できるように整備しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています	家事等を積極的にやっていただけのご利用者様については、しっかり家事を生活リハビリとしてやっていただいています。趣味については、生活歴等から外出、散歩、レクリエーションで支援しています。晩酌を楽しみにされる方もおられ希望された時は提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めています。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援しています	外出の希望があった場合はできるだけ対応するようにしています。午後にその希望のあるご利用者様に外出して頂く様にしています。	個別外出は、ホームとして力を入れて取り組んでいる支援で、ホーム前の長居公園には毎日散歩に出かけています。季節毎の外出や誕生日外出、利用者の希望による外出は、利用者や家族に好評です。最近では、落語や文楽劇場に出かけました。外出支援には、ボランティアの方々の協力をいただいています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています	現金をお持ちのご利用者様については、買い物の際にはご自身で払って頂く様にしています。現金を所持される安全性やご本人様にとっての意味については、ケース会議等で検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援しています	ご家族様や友人の方からのハガキや手紙も読むのが難しくなられた方にもご本人の了承を得、読み聞かせをしています。 また、ご希望のご家族様には、ご利用者様と一緒に郵便を書き添えていただくよう相談室を提供しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています	ご利用者様の状況に合わせてテーブルやソファの配置を換えたりして落ち着けるスペースになるようにしています。ベランダでは花や野菜を育てたり、金魚を育てるなど、よりアットホームな雰囲気作りを行っています。	広く、明るいリビングからは長居公園の緑が見え、四季の移り変わりが感じられます。リビングも季節感あふれる飾りつけをする等、工夫しています。ソファの配置にも配慮し、くつろげるスペースがあります。雨の日も歩行訓練できる平行棒を購入し置いてあります。8S(整理・整頓・清潔・清掃・安全・節約・躰・しぐさ)運動は、居心地のよい環境づくりに活かされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています	リビングのテーブルやソファの配置を検討し、対応しています。自然にご利用者様同士が座席に座っていただけるように心がけています。 独りになられたい場合も行動を抑制することなく、より安全にお過ごしいただけるよう工夫に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	入居時にご家族様に現在使っているものを持ってきてくださるよう説明を行っています。入居後は居室内の変更については、随時ご家族様の協力を得ています。	利用者は、使い慣れた家具や大切にしている家族の写真、お気に入りのぬいぐるみ等を持ちこみ、その人らしい居室になっています。また、清潔な居室を保てるよう心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています	共有スペースを広く取っています。 トイレや居室などその方の状態に応じてわかるよう掲示をするなど工夫しています。 また、脱衣場に手すりを設置し、安全に着脱できるように配慮しています。		